

2012 年 6 月 19 日

調査レポート

グラフで見る東海経済 (2012 年 6 月)

【今月の景気判断】

東海経済は緩やかに持ち直している。自動車の挽回生産は一段落したが、鉱工業生産は 2 ヶ月連続プラスと持ち直しが続いている。エコカー補助金や新型車投入の効果により、自動車など輸送機械工業の生産は、リーマンショック前の水準を超え、統計開始以来最高となった。設備投資は底堅く推移しており、公共投資も増加に転じた。雇用・所得環境の持ち直しは依然として緩やかであり、個人消費も緩やかな回復にとどまっている。

今後も、景気は持ち直しの動きが続くとみられるが、欧州の財政金融危機の影響などから海外経済の回復ペースが鈍化するリスクや、円高、米国経済の先行き不透明感など、輸出環境の改善が遅れる懸念が高まっている。エコカー補助金枠の消化をにらんで、自動車生産の押し上げ効果も次第に弱まることが予想される。

【今月の景気予報】

	3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	↗		→	輸出	↗		↗
個人消費	↗		→	輸入	↗		→
住宅投資	→		→	生産	↗		→
設備投資	→		→	雇用	↗		→
公共投資	→		→	賃金	→		→

(注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。
2. シャドー部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

【当面の注目材料】

- ・世界景気 ～欧州の財政金融危機の行方、米国、中国の景気の先行き不透明感、不安定な金融市場の動向
- ・企業活動 ～補助金枠の消化をにらんだ自動車の販売および生産の動向、円高の輸出と設備投資への影響
- ・家計 ～雇用・所得環境の先行き、自動車など耐久財消費の動向、自動車生産の一服が消費に与える影響

～本レポートについては最終ページ【「グラフで見る東海経済」の見方】参照

三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社

調査部 内田 俊宏 (chosa-report@murc.jp)

〒460-8621 名古屋市中区錦 3 丁目 20-27

TEL: 052-203-5321

【各項目のヘッドライン】

項目	5月のコメント	6月のコメント	ページ
1．景気全般	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	3～4
2．生産	持ち直している	持ち直している	5～7
3．雇用	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	7～8
4．賃金	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移	9
5．個人消費	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	10～11
6．住宅投資	下げ止まりつつある	下げ止まりつつある	12
7．設備投資	底堅く推移している	底堅く推移している	12～13
8．公共投資	減少傾向にある	下げ止まりつつある	13
9．輸出入	輸出、輸入とも増加	輸出、輸入とも増加	14～15
10．物価	消費者物価は緩やかに上昇	消費者物価は緩やかに上昇	15
11．金融	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加	16
12．倒産	倒産件数は減少、負債総額は増加	倒産件数は増加、負債総額は減少	16

(注) シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目

(*) 参考資料:「グラフで見る景気予報」 → <http://www.murc.jp/report/research/list.php>

【前月からの変更点】
8．公共投資

5月の東海3県の公共工事請負額は、災害復旧および防災対策工事の発注等により増加に転じた。

12．倒産

5月の東海3県の倒産件数は増加したが、負債総額は逆に減少した。

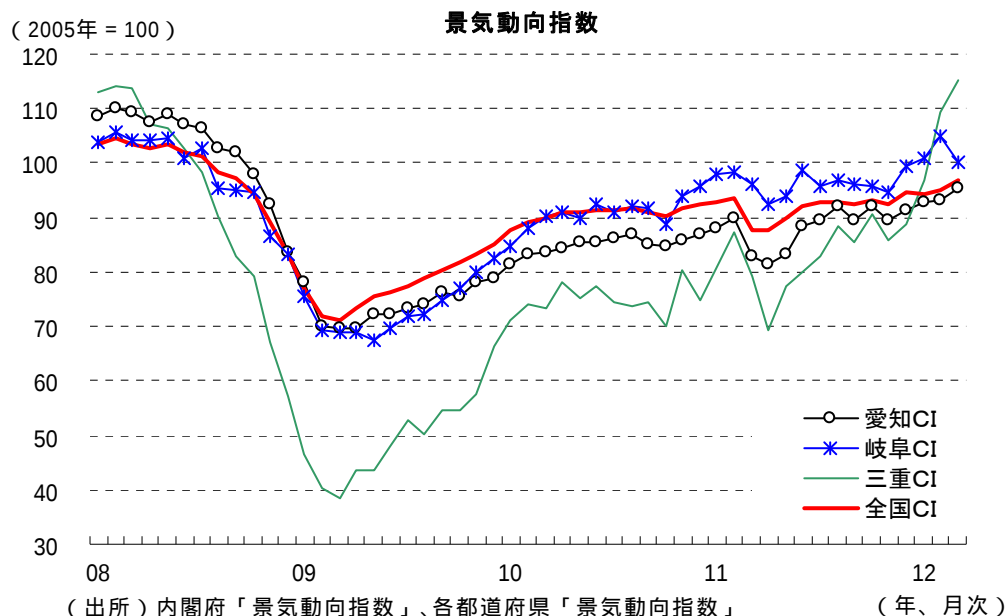
【主要経済指標の推移】

経済指標		11 1-3	11 4-6	11 7-9	11 10-12	12 1-3	11 12	12 1	12 2	12 3	12 4	12 5
景気全般	景気動向指数 愛知（C I、一致指数）	87.0	84.4	90.3	91.0	93.8	91.4	92.8	93.2	95.4		
	岐阜（C I、一致指数）	97.3	95.0	96.2	96.6	102.0	99.4	100.9	105.0	100.0		
	三重（C I、一致指数）	82.4	75.5	85.7	88.5	107.2	88.9	97.0	109.5	115.2		
	景気ウォッチャー調査（現状判断DI）	41.4	36.8	49.5	46.2	48.6	47.4	46.4	46.8	52.7	50.8	48.0
	（先行判断DI）	41.3	42.7	48.8	44.5	47.9	43.1	46.3	48.1	49.2	50.8	49.9
	短観業況判断 D I（大企業製造業）	13	-25	20	4	17	2 <6月予想>					
	（中小企業製造業）	-6	-29	-4	-7	-5	-11 <6月予想>					
生産	（非製造業）	-7	-24	-13	-4	-3	-9 <6月予想>					
	法人企業統計経常利益 製造業（兆円）	0.0	0.1	0.2	0.3	0.4						
	非製造業（兆円）	0.1	0.2	0.2	0.2	0.1						
	鉱工業生産（季節調整済、前期比・前月比）	-2.5	-11.4	15.5	0.7	8.0	9.2	4.1	-0.6	2.6	2.0	
	鉱工業出荷（季節調整済、前期比・前月比）	-1.2	-11.7	15.9	0.7	6.3	8.8	2.7	1.4	-0.8	3.4	
	鉱工業在庫（季節調整済、前期比・前月比）	0.7	0.6	2.9	-1.8	2.6	-0.2	0.2	-1.4	10.9	4.8	
	鉱工業生産 輸送機械（ " ）	-7.2	-22.9	45.7	5.6	12.5	17.3	6.0	-3.4	8.8	8.8	
	一般機械（ " ）	8.3	3.9	1.9	-1.8	0.7	-0.3	1.5	-1.0	0.8	1.8	
	電子部品・デバイス工業（ " ）	-1.9	-13.5	-2.7	0.9	10.1	11.8	-2.3	10.7	-15.5	-3.9	
	プラスチック製品工業（ " ）	-1.0	-6.3	11.5	2.5	8.0	6.3	2.9	0.5	5.1	7.8	
	化学（ " ）	3.7	-1.5	-1.1	0.4	-5.7	8.5	-7.1	1.4	-7.4	5.3	
	電気機械（ " ）	3.0	-6.2	7.7	-1.6	1.1	2.7	0.3	-3.1	6.0	1.4	
	金属工作機械受注 総受注（億円）	338.4	375.8	372.9	363.5	322.2	380.0	310.4	288.0	368.3	335.0	
雇用	国内受注（億円）	101.1	107.3	119.2	116.5	113.9	126.0	96.0	103.1	142.7	109.4	
	海外受注（億円）	237.3	268.4	253.7	246.9	208.3	254.0	214.4	185.0	225.6	225.6	
	大口販売電力量	2.4	-2.4	-0.5	1.9	4.9	1.9	1.2	5.6	8.0	10.2	
	完全失業率（原数値、％）	4.0	3.9	3.5	3.5	3.5						
	就業者数（原数値、万人）	772	770	772	771	763						
	常用雇用指数 愛知	98.4	99.7	99.5	99.5	99.0	99.3	99.3	99.1	98.6		
	岐阜	99.3	99.9	99.8	99.5	99.1	99.3	99.6	99.6	98.0		
	三重	98.0	97.5	97.1	97.4	99.4	97.3	99.2	99.7	99.3		
	有効求人倍率 愛知（季節調整値、倍）	0.8	0.8	0.9	1.0	1.1	1.0	1.0	1.1	1.1	1.2	
	岐阜（季節調整値、倍）	0.7	0.8	0.8	0.8	0.9	0.8	0.9	0.9	1.0	1.0	
	三重（季節調整値、倍）	0.7	0.7	0.7	0.8	0.9	0.8	0.8	0.9	0.9	0.9	
	新規求人倍率 愛知（季節調整値、倍）	1.3	1.3	1.4	1.6	1.7	1.6	1.6	1.7	1.8	1.9	
	岐阜（季節調整値、倍）	1.2	1.2	1.2	1.3	1.5	1.3	1.4	1.5	1.5	1.5	
	三重（季節調整値、倍）	1.1	1.0	1.2	1.2	1.4	1.3	1.3	1.4	1.5	1.5	
賃金	現金給与総額	0.0	-1.5	1.5	0.1	-0.5	0.2	0.0	-1.2	-0.4		
	所定内給与	-1.1	-1.2	-0.7	-0.6	-0.8	-0.7	-0.9	-0.4	-0.9		
	所定外給与	4.9	-6.3	2.4	7.4	10.8	8.1	5.6	11.7	15.1		
	勤労者世帯（含む農家）の名目収入 勤め先収入	-3.1	-5.9	2.4	-1.5	4.5	-1.2	5.2	6.8	1.8	1.5	
個人消費	定期収入	-4.4	0.6	-1.7	-0.2	7.0	1.8	4.0	10.7	6.4	6.2	
	勤労者世帯（含む農家）の名目消費支出	-6.5	0.7	-8.8	-1.2	-4.7	7.0	-6.2	2.7	-9.2	-5.2	
	百貨店販売額（名古屋市内）	-3.8	-5.0	-5.1	-1.3	-0.3	-0.1	-2.1	-1.2	2.4	0.2	-0.5
	百貨店＋スーパー販売額（名古屋市内百貨店除く）	1.8	0.8	-0.5	-0.8	0.4	0.3	-0.1	0.9	0.5	-2.0	
	コンビニエンスストア販売額	6.7	5.9	5.7	9.7	2.5	3.2	0.6	5.6	1.2	6.2	
	消費者態度指数（一般世帯、原数値）	40.5	35.1	38.7	38.6	40.0	38.5	40.0	39.5	40.5	41.0	41.1
	トヨタ国内生産台数（季節調整値、万台）	22.5	13.9	26.3	28.5	33.5	30.2	32.2	33.1	35.3	32.5	
	家電販売額						1.9	-9.7	-18.2	-28.1		
住宅投資	新車登録台数（除軽）						24.7	46.2	32.4	77.9		
	新設住宅着工戸数（季節調整済年率換算、千戸）	105.4	95.9	115.8	92.0	97.8	91.7	90.7	101.0	101.6	99.3	
設備投資	（前年比、％）	-0.9	-4.4	9.8	-13.7	-7.2	-11.9	-14.4	-5.2	-2.0	-2.1	
	法人企業統計設備投資（製造業）	17.4	-12.6	-8.0	-10.5	-3.5						
	（非製造業）	-2.3	-5.6	1.6	1.7	-12.5						
公共投資	企業立地件数	-	-	-	-	-	9		8			
	公共工事請負額	-6.0	-19.7	-6.2	-5.7	-0.7	-8.2	-16.6	31.0	-7.1	-10.2	42.7
輸出入	通関輸出（金額ベース、円建て）	0.2	-17.1	3.9	0.4	5.0	-4.0	-3.1	2.2	14.7	34.4	
	通関輸入（金額ベース、円建て）	15.6	19.3	25.6	21.6	12.9	14.8	19.9	7.4	11.1	8.9	
物価	消費者物価指数（除く生鮮）	-0.8	-0.2	0.1	-0.1	0.3	-0.1	0.1	0.3	0.5	0.6	
	（食料及びエネルギーを除く総合）	-1.4	-1.0	-0.7	-1.2	-0.7	-1.2	-0.9	-0.6	-0.5	-0.2	
金融	国内銀行預金残高	0.7	2.1	2.9	3.2	3.4	3.2	3.3	3.2	3.6	2.1	
	国内銀行貸出残高	-1.6	0.1	0.7	1.4	2.2	1.4	1.5	2.7	2.3	1.3	
倒産	倒産件数	21.4	29.6	-14.3	2.7	-17.6	-8.4	0.9	-7.2	-39.4	-5.8	6.6

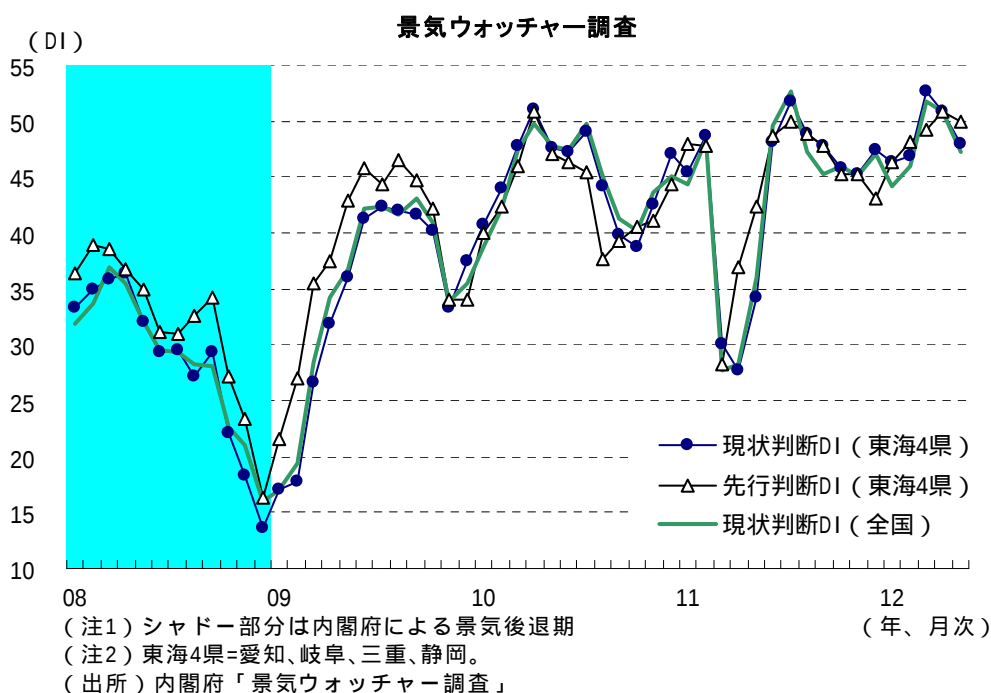
（注）括弧書きのない場合は、単位は前年比、％

1. 景気全般 ～緩やかに持ち直している

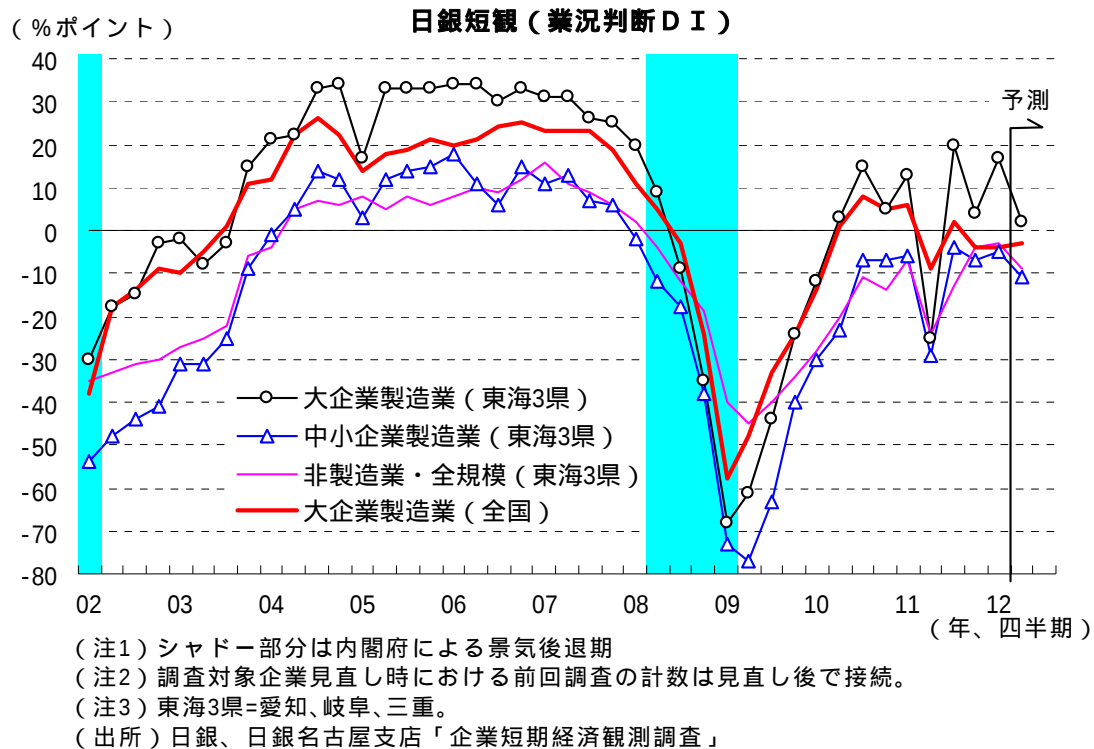
○3月の東海3県の景気動向指数・C I 一致指数は、岐阜県が4ヶ月ぶりに低下したものの、愛知県と三重県は上昇した。愛知県のC I 一致指数では自動車などの生産増が寄与し、8系列のうち6系列がプラスとなった。三重県も自動車などの生産増加が指数の上昇に寄与している。



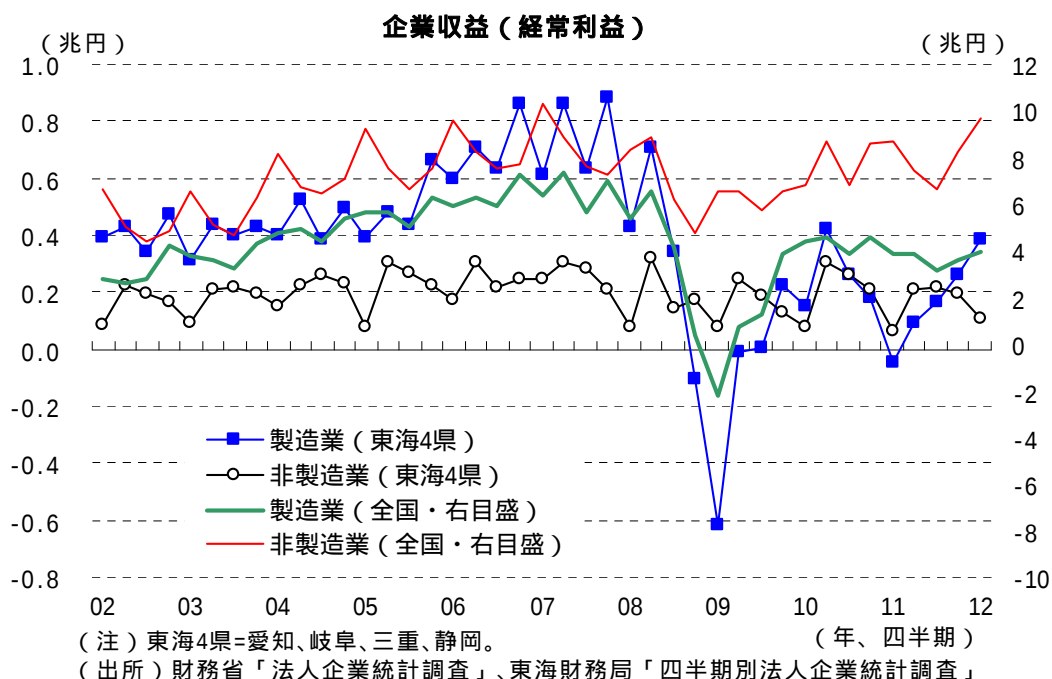
○ 5月の東海4県の景気ウォッチャー調査は、足元の景況感を示す現状判断D Iが前月比-2.8ポイントと2ヶ月連続で悪化した。家計動向関連の現状判断D Iが同2.5ポイント低下し45.8となったが、自動車販売の伸びに一服感がみられ始め、エコカー補助金の効果も一段落しつつある。東海4県の先行判断D Iは同-0.9ポイントと低下に転じている。



○日銀短観 3 月調査では、東海 3 県の大企業製造業の業況判断 D I (「良い」-「悪い」)は+17 と、前回 12 月調査から+13 ポイント改善した。特に、自動車+30、汎用機械+43、金属製品+20 が改善に寄与している。一方、中小製造業は-5 と前回調査からの改善幅は+2 ポイントと小幅にとどまった。大企業製造業の12年6月予測は+2と15ポイント低下する見通しで、先行きへの警戒感は依然根強い。

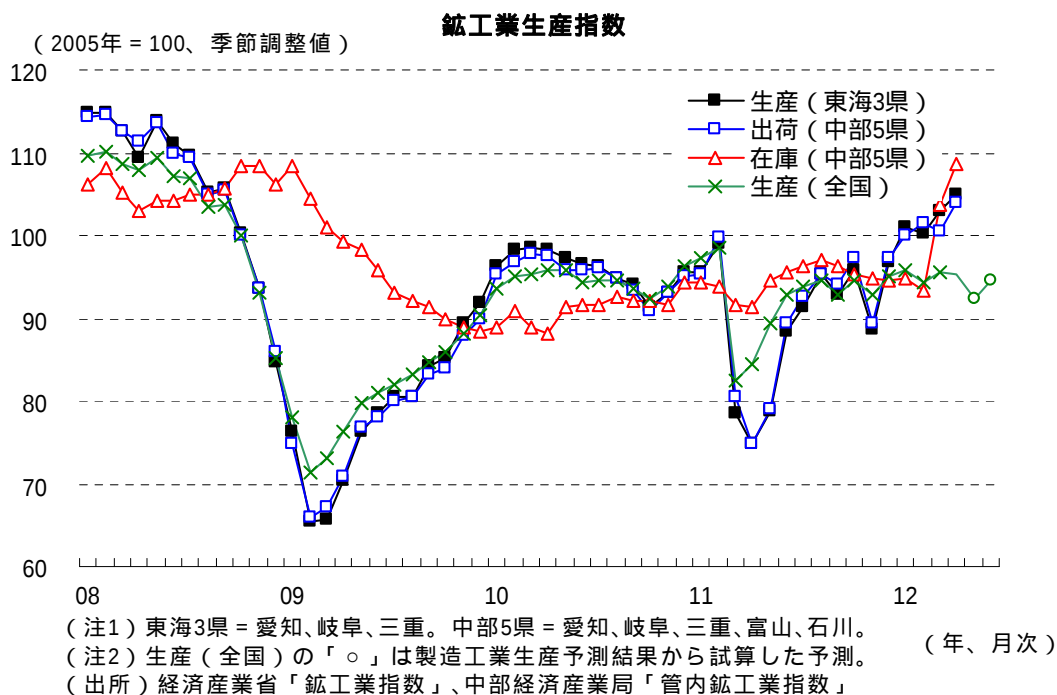


○2012年1~3月期の東海4県の企業収益 (経常利益、製造業) は前年同期の赤字から黒字に転換したが、円高やタイ洪水の影響もあり震災前の水準を回復していない。非製造業は前年同期比で増加したが、水準は低い。今後は、円高や中国経済の減速などが業績の下押し要因となるが、米国経済の持ち直しにより製造業の企業収益は緩やかな増加基調が見込まれる。

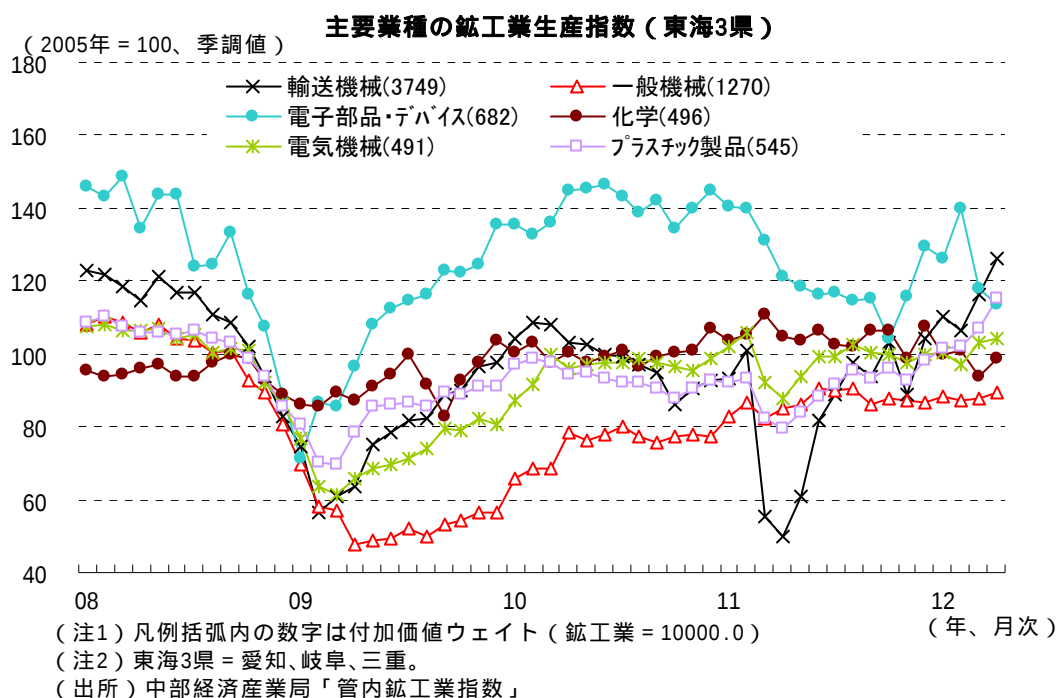


2. 生産 ～持ち直している

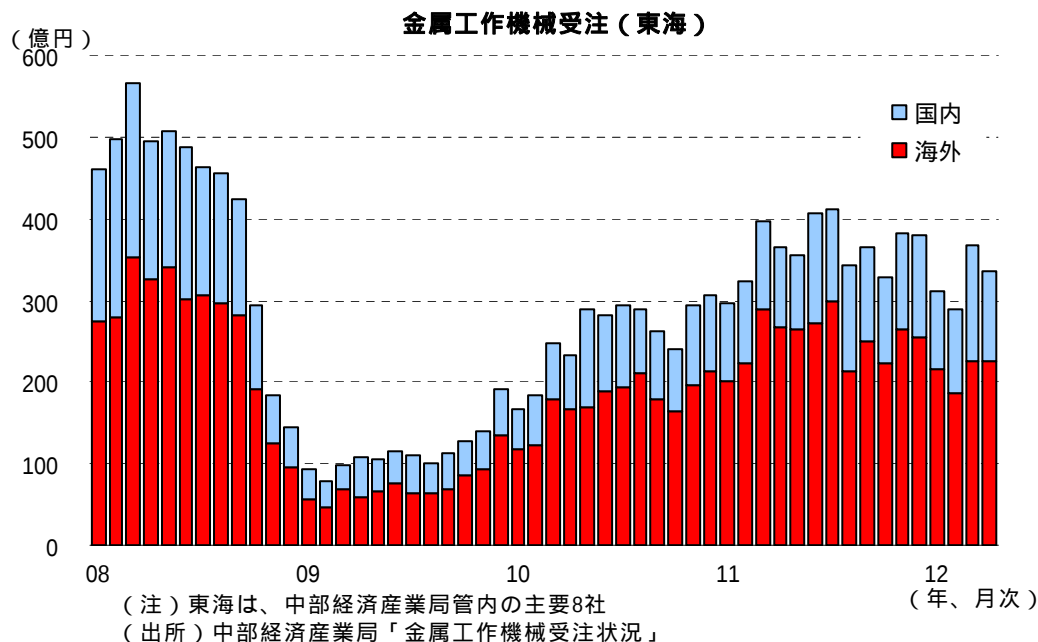
○4月の東海3県の鉱工業生産指数（速報値）は、前月比+2.0%と2ヶ月連続で上昇した。生産指数は105.0と震災直前の2011年2月（99.4）を大きく上回り、リーマンショック前の2008年8月の水準（105.3）に近づいているが、足元では自動車の挽回生産が一段落している。先行きは、エコカー補助金の効果も次第に弱まっていくとみられ、横ばい圏で推移すると見込まれる。



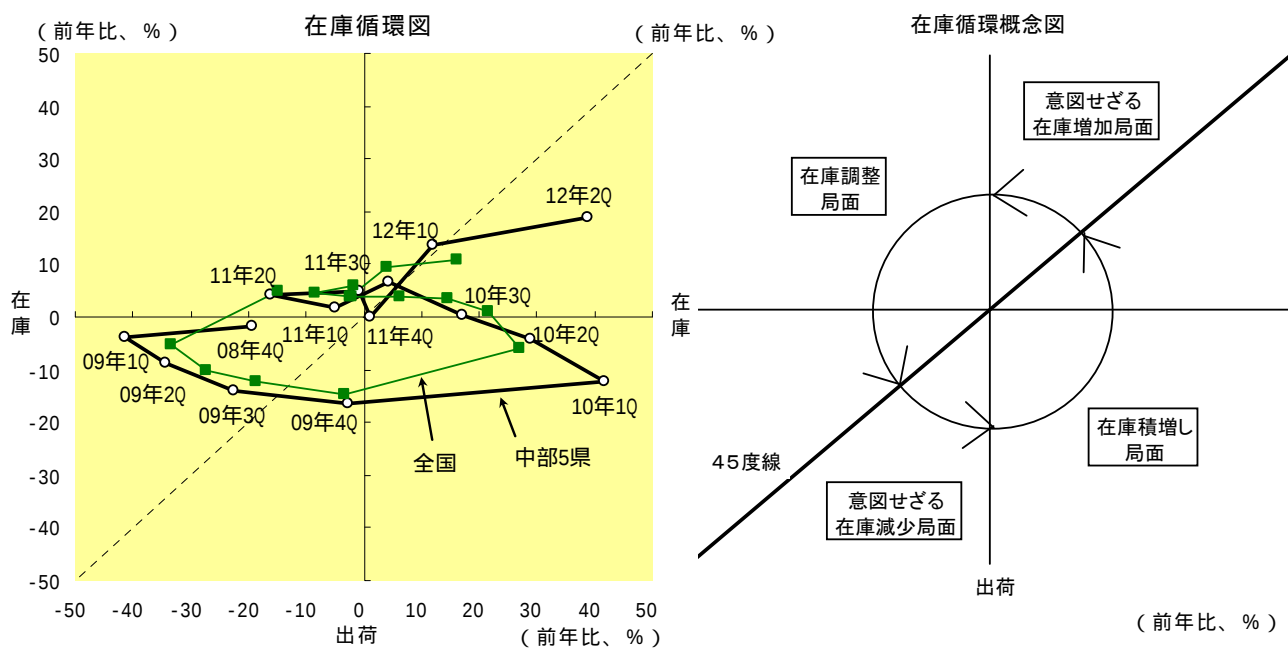
○業種別にみると、エコカー補助金や新型車投入の効果により自動車関連の生産増が続いており、輸送機械工業は126.3と、これまでの最高だった07年10月（125.5）を上回り、調査開始以来、最高水準となった。好調な自動車生産が波及し、プラスチック工業製品も+7.8%の上昇となった。



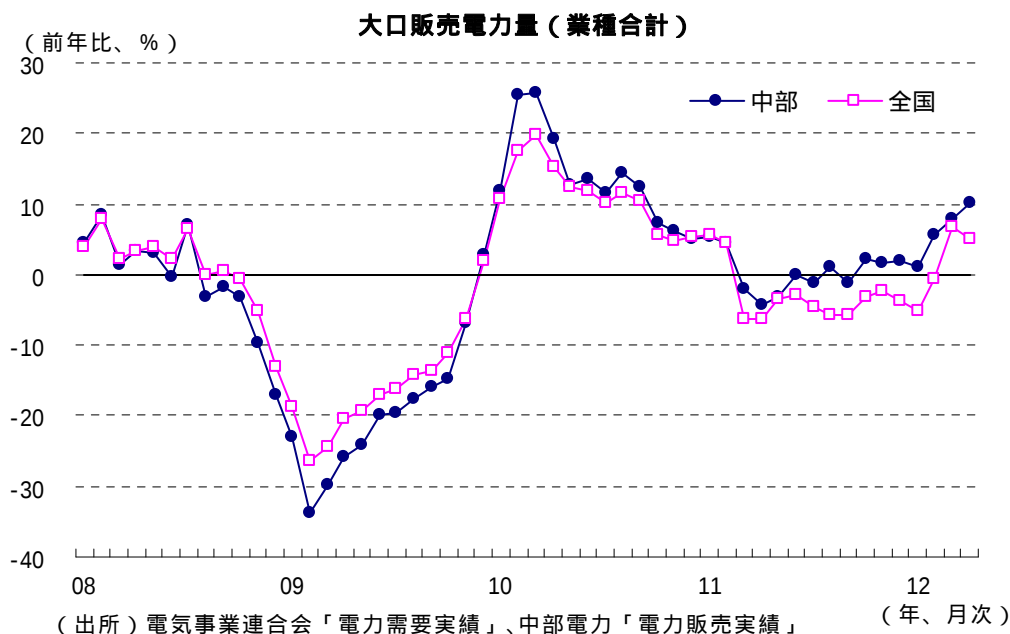
- 4月の中部の主要工作機械メーカー8社の総受注額は前年比-8.1%と3ヶ月連続で前年割れとなった。国内受注は+13.2%と3ヶ月連続で増加したが、海外受注は-15.8%と3ヶ月連続で減少した。特に中国向けはこれまでの金融引き締めの影響で-40.5%と減少が続いている。財政金融危機が続く欧州向けも-10.4%と減少となる一方、自動車や航空機向けが好調な米国は+8.5%と増加している。



- 4月の中部5県の出荷は、自動車関連を中心に前月比+3.4%と増加し、在庫も自動車などを中心に同+10.9%と増加した。液晶テレビや液晶素子などの電子部品・デバイスが需要減により在庫が積み上がっている。また、自動車では、需要の拡大に対応し、不足している在庫の復元を目指す動きもみられる

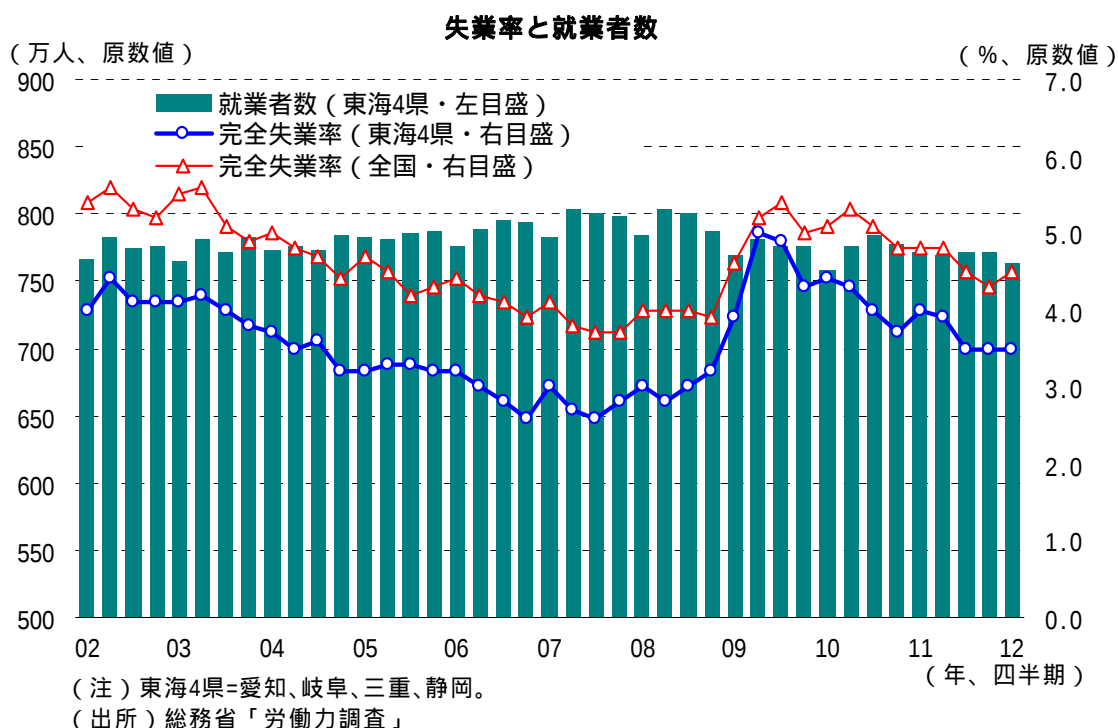


○4月の中部電力管内の大口電力（契約電力500kw以上）は、震災の影響による前年の生産減の反動増により、前年比+10.2%と大幅に増加した。特に自動車の増産が寄与しており、全国を上回る高い伸びが続いている。業種別では、自動車などの機械工業向けが+21.7%、自動車向け鋼材を生産する鉄鋼業向けも+27.8%と増加している。

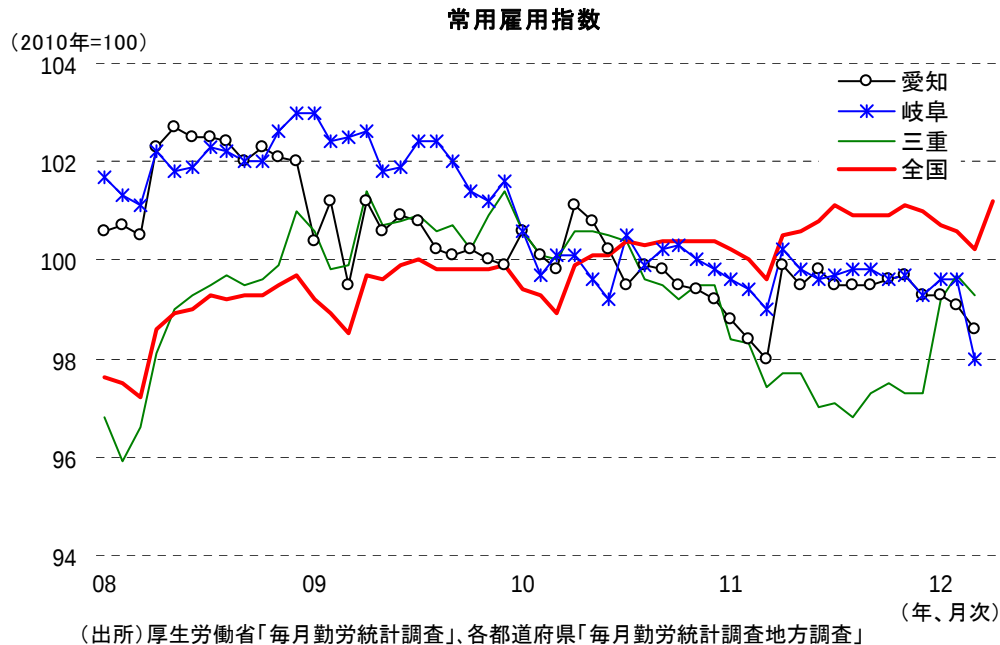


3. 雇用 ～緩やかに持ち直している

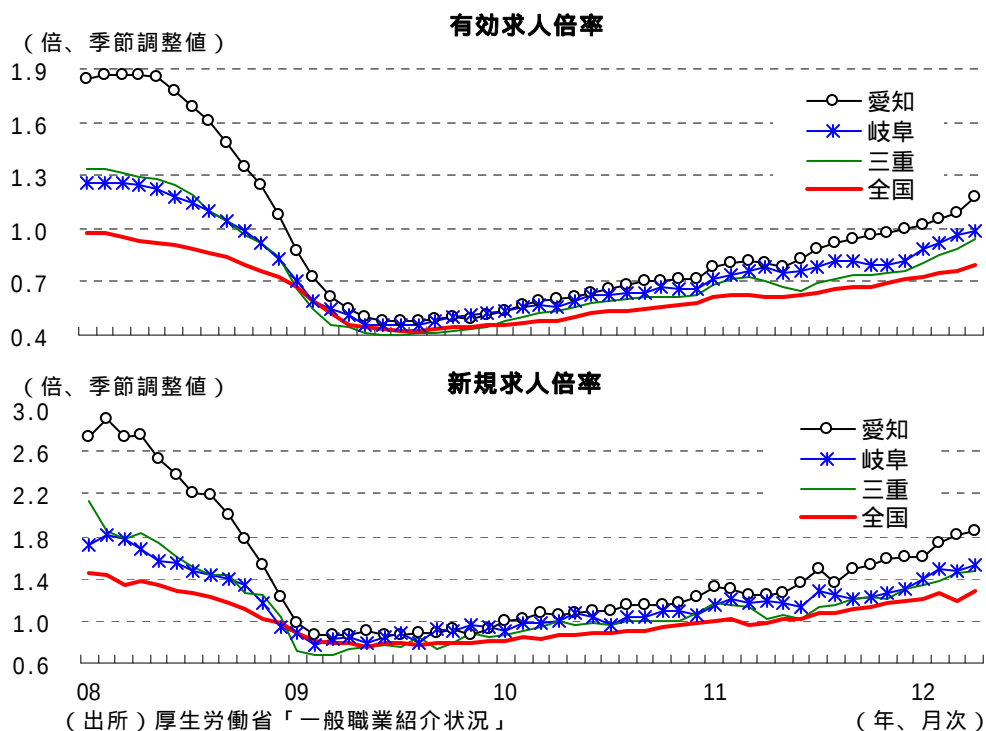
○2012年1～3月期の東海4県の完全失業率は3.5%（前期比±0）と横ばいとなったが、全国の4.5%と比べて低い水準で推移している。2012年1～3月期の就業者数は前期比8万人の減少となった。震災以降の改善傾向はやや頭打ちになってきた。今後の雇用情勢は、自動車の挽回生産が一段落することから、さらに緩やかなペースでの改善にとどまるとみられる。



○3月の東海3県の常用雇用指数は、愛知県が前年比+0.6%（うち製造業+1.0%）、三重県が同+2.0%（うち製造業+2.1%）と2県が製造業を中心に上昇したが、岐阜県は同-0.1%（うち製造業-0.4%）と低下した。東海3県の常用雇用は、復興関連需要にともない改善が続く全国に比べて弱いトレンドが続いている。

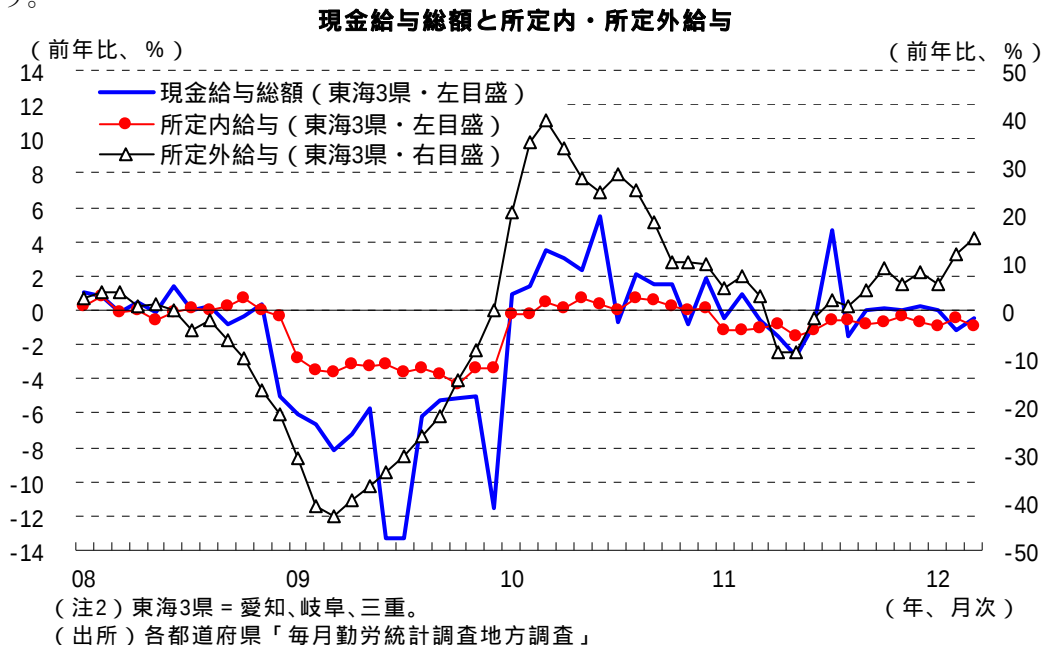


○4月の東海3県の有効求人倍率（季節調整値）は、愛知1.18倍、岐阜0.99倍、三重0.94倍と5ヶ月連続で3県とも改善した。特に愛知県は自動車の増産がピークを迎え、製造業の求人増により福井県と同率で全国1位となった。新規求人倍率（同）は、愛知1.85倍、岐阜1.53倍、三重1.46倍となったが、新規求人のうち正社員は半分以下にとどまり、依然、正規雇用は厳しい状態が続いている。

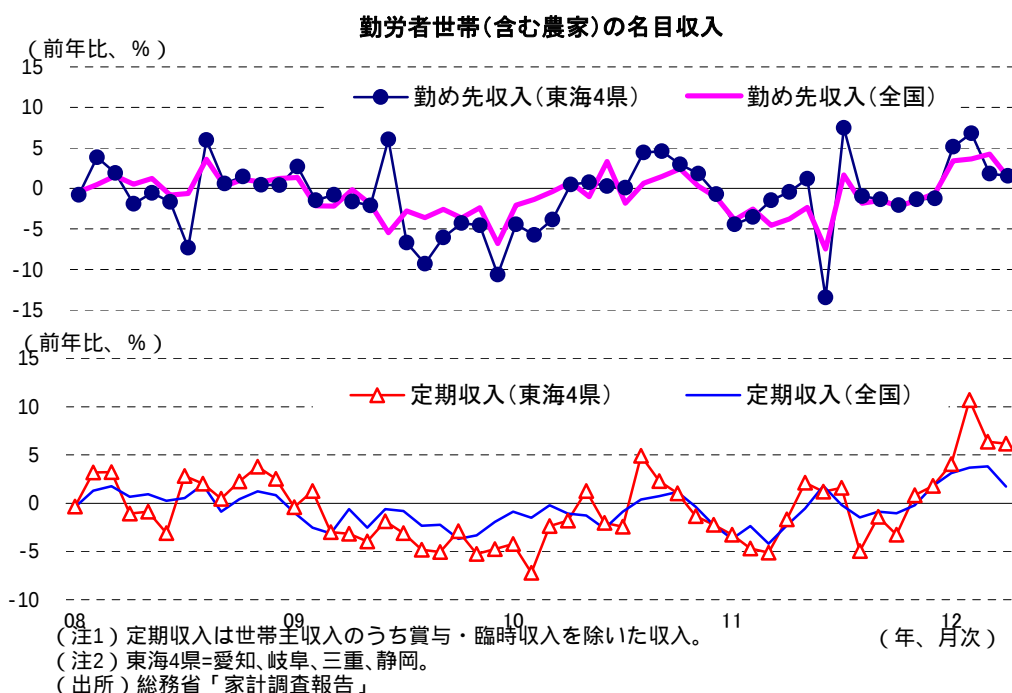


4. 賃金 ～横ばい圏で推移

○3月の一人当たり現金給与総額は前年比-0.4%と3ヶ月連続で減少した。所定外給与は同+15.0%と9ヶ月連続で増加したが、所定内給与が同-0.9%と15ヶ月連続で減少が続いている。賃金の持ち直しは所定外給与に限定され、企業の人件費抑制姿勢も根強いいため、今後も賃金は緩やかな伸びにとどまるだろう。

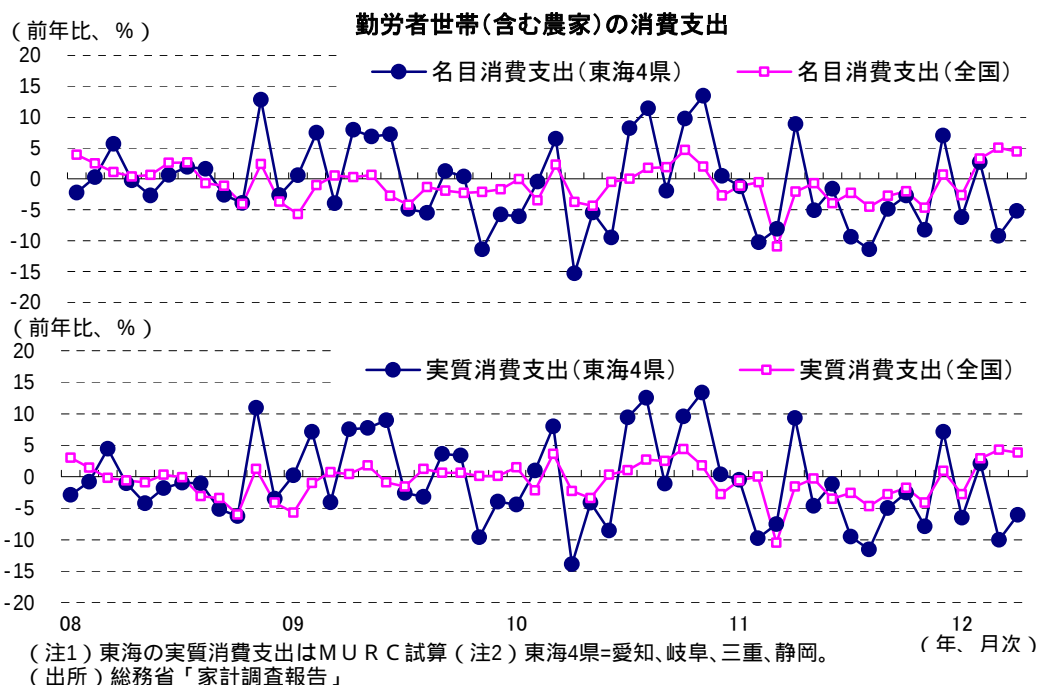


○家計調査によると、4月の東海4県の勤労者世帯(含む農家)の賞与を含む勤め先収入は前年比+1.5%と4ヶ月連続で増加した。定期収入(世帯主収入のうち賞与・臨時収入を除いた収入)は前年比+6.2%と6ヶ月連続で増加し、全国と比べて強めの持ち直しが続いているが、自動車の増産を背景に所定外給与の増加が寄与している。

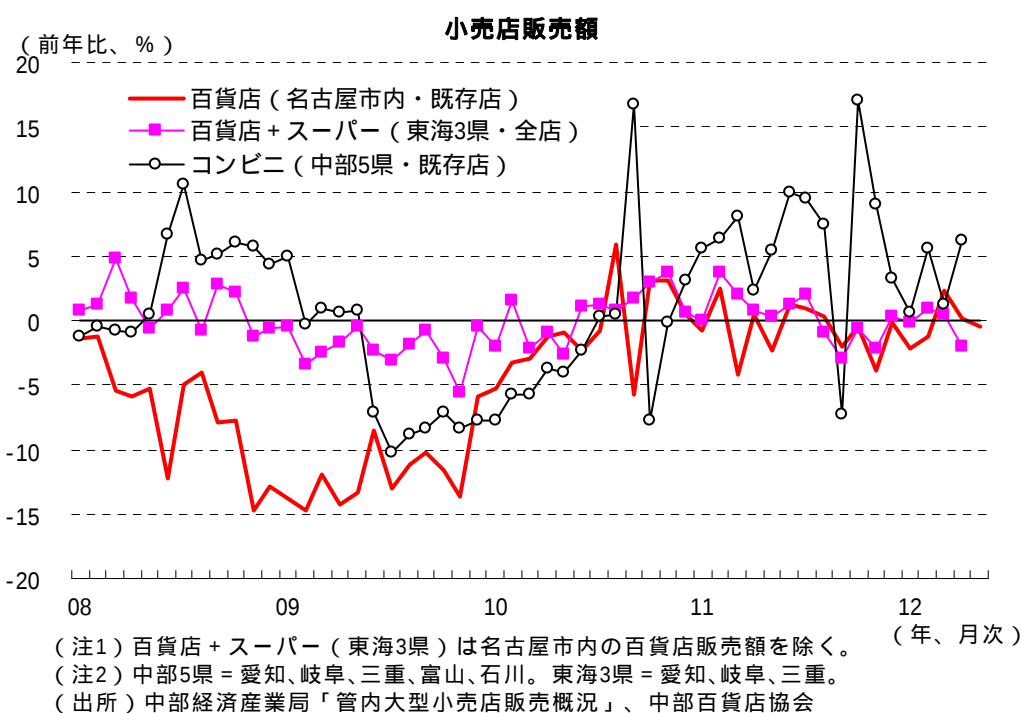


5. 個人消費 ～緩やかに持ち直している

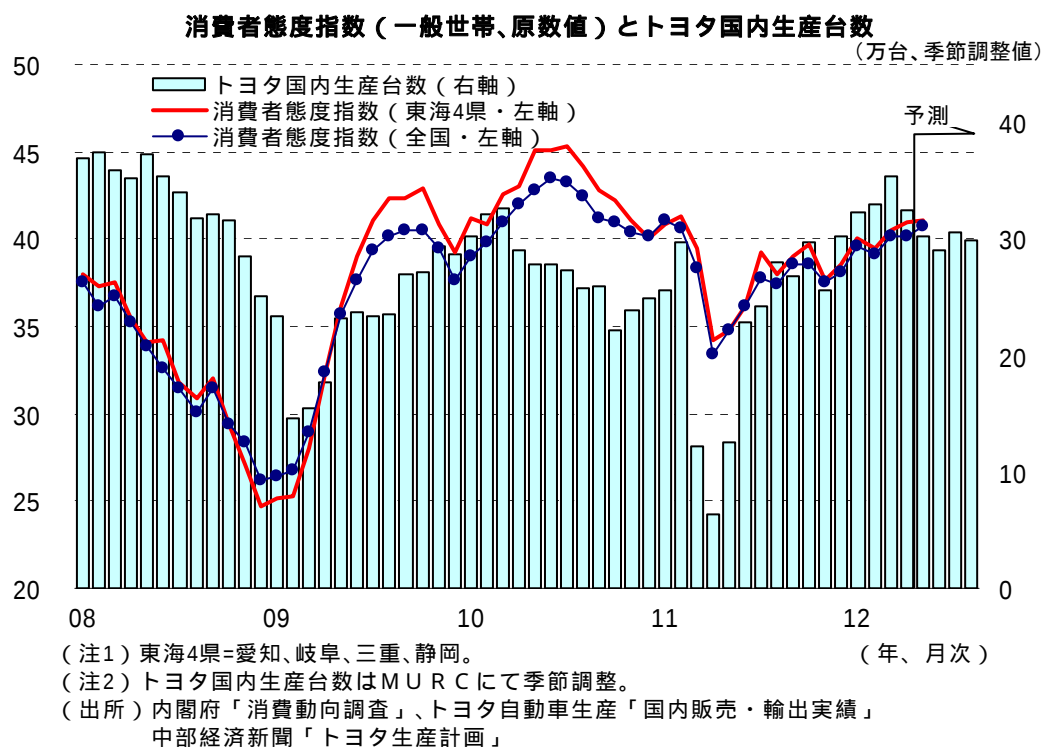
○4月の東海4県の勤労者世帯（含む農家）の名目消費支出は前年比－5.2%と2ヶ月連続で減少した。雇用環境の持ち直しが非正規社員にとどまっているほか、所得環境の持ち直しも所定外給与が中心で、個人消費は底堅いものの、大きくは好転していない。



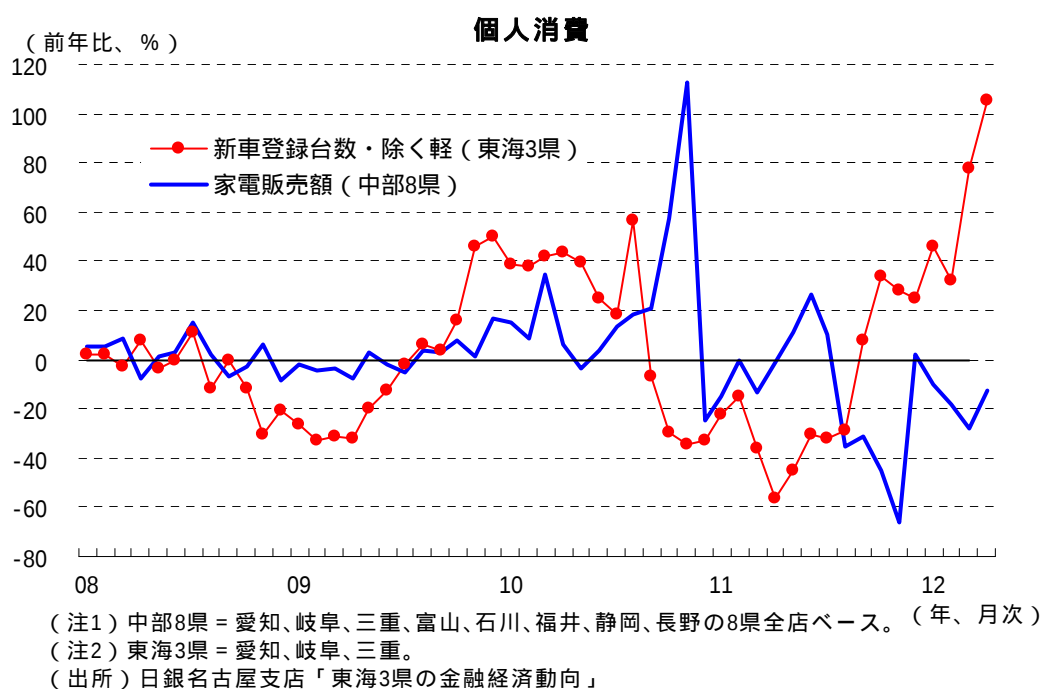
○5月の名古屋市内の百貨店販売額は前年比－0.5%とほぼ横ばいとなった。改装効果が続き、前年比で土日祝日が2日少なかった分のマイナスを吸収した。一方、4月の東海3県の大型小売店（百貨店＋スーパー）の販売額は－1.5%と薄型テレビの不振で家電製品の落ち込みが響いた。4月の中部5県のコンビニ販売額は＋6.2%と行楽需要の回復や前年のたばこ供給不足の反動により増加した。



○消費者マインドを表す消費者態度指数（東海、一般世帯、原数値）は震災からの改善傾向が続いており、5月は前月比+0.1ポイントの上昇となった。東海の消費者マインドはトヨタの生産動向の影響を受けやすく、挽回生産のピークが3月だったことから消費者マインドの改善も鈍化しつつある。

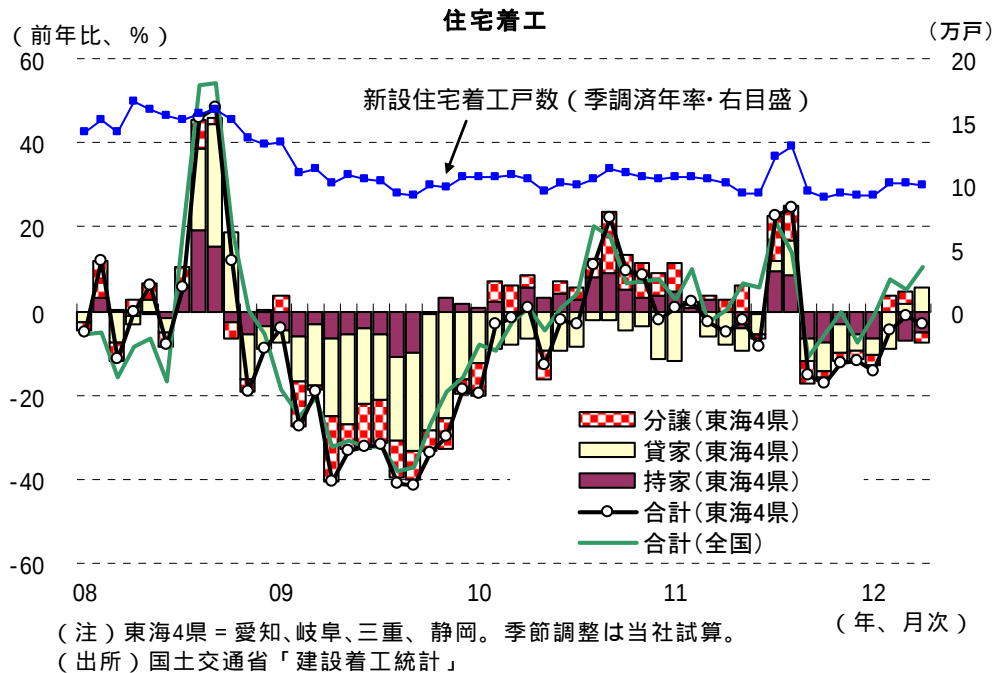


○4月の東海3県の新車登録台数（乗用車、除く軽）は、前年同月が震災の影響で低水準だったこともあり、前年比+105.5%と大幅増となった。当面は高水準での推移が見込まれるが、7月中にもエコカー補助金が切れる見通しで、販売は早めに鈍化することが予想される。中部8県の家電販売額は前年比-12.5%と4ヶ月連続で減少した。スマートフォンは堅調だが、テレビやパソコンの不振が続いている。



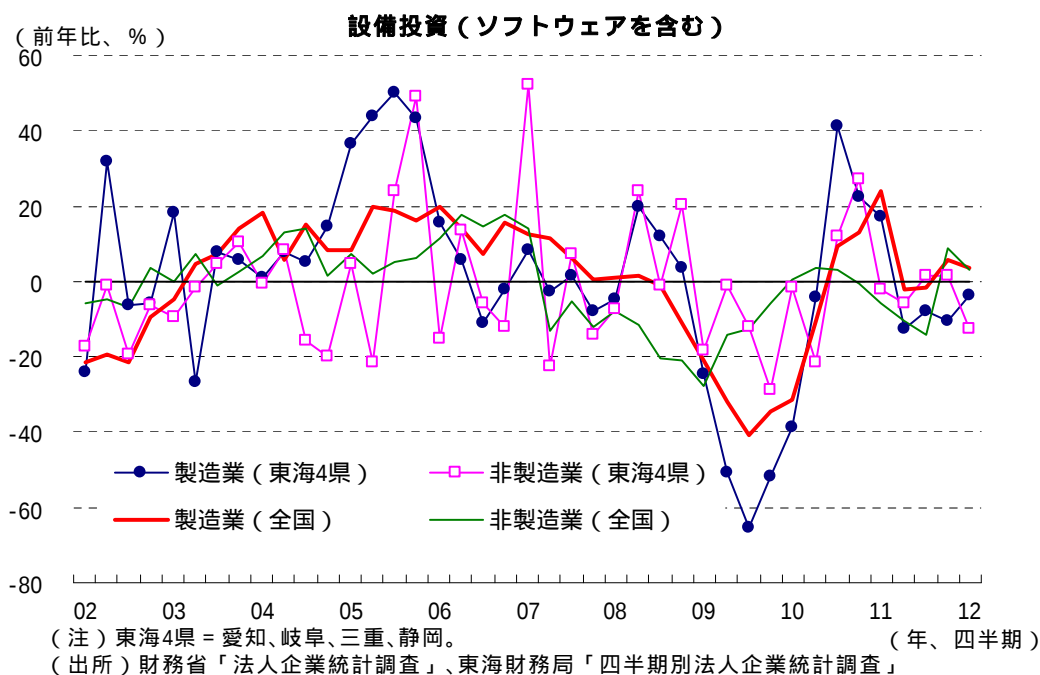
6. 住宅投資 ～下げ止まりつつある

○4月の東海4県の住宅着工戸数は、前年比－3.2%の7,678戸と8ヶ月連続で減少した。利用関係別では、貸家が同＋5.4%と2ヶ月連続の増加となったものの、分譲が同－2.5%と2ヶ月ぶりに減少したほか、持家も－5.2%と8ヶ月連続で減少が続いている。全国的には、復興関連需要などにより回復傾向が続いているが、東海4県の住宅投資は全国と比べて持ち直しの動きが遅れている。

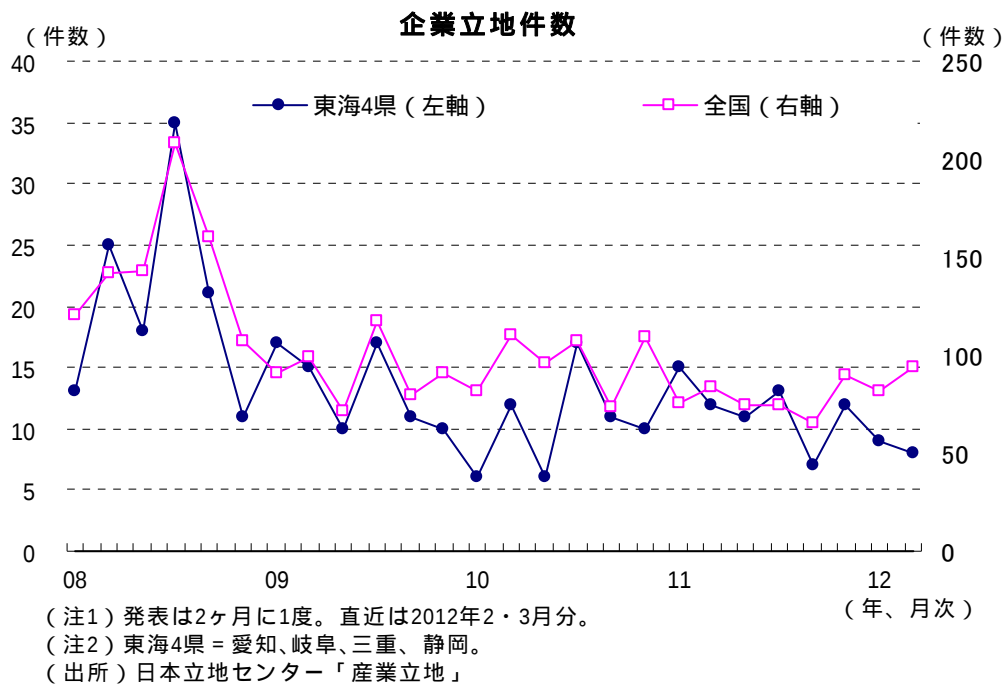


7. 設備投資 ～底堅く推移している

○2012年1～3月期の東海4県の製造業の設備投資は前年比－3.5%と4四半期連続で減少したが、減少幅は縮小した。一方、非製造業（ソフトウェアを含む）は前年比－12.5%と大幅に減少した。設備投資は底堅く推移しているものの、全国比やや弱めの動きが続いている。日銀短観3月調査によると、12年度の設備投資計画は、製造業（＋0.2%）、非製造業（＋9.4%）ともに増加が見込まれている。

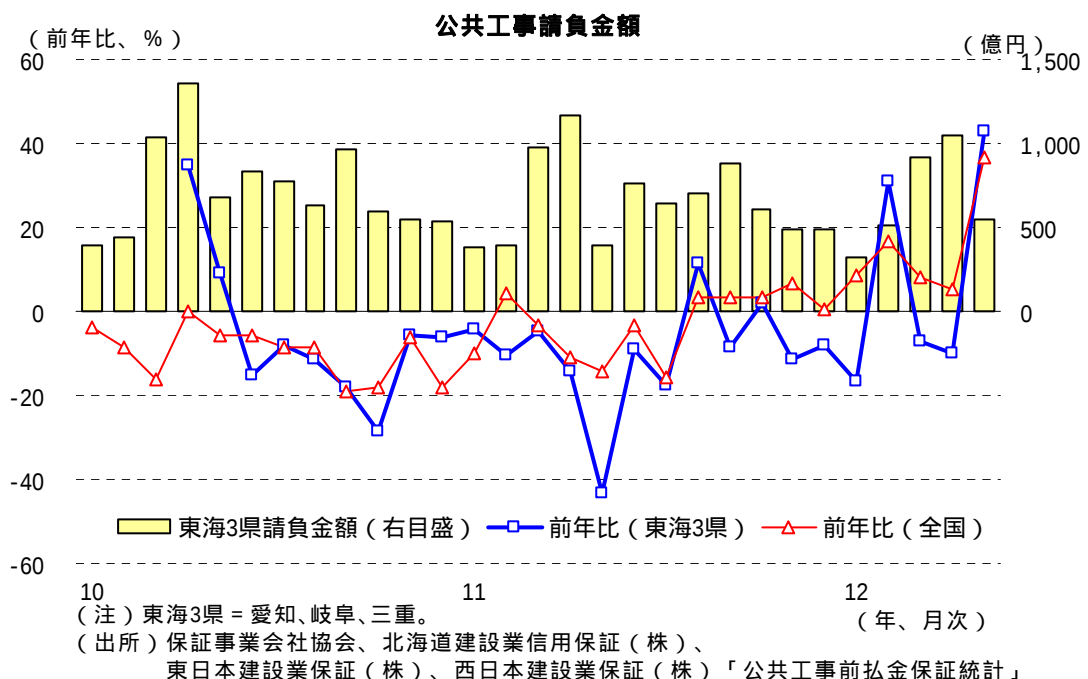


○2012年2・3月の東海4県の企業立地件数は8件と前年の12件から減少した。一方、全国は94件と前年の84件より増加している。震災直後から円高が進んだこともあり、昨年度後半以降の東海4県の企業立地件数は全国と比べて伸び悩んでいる。



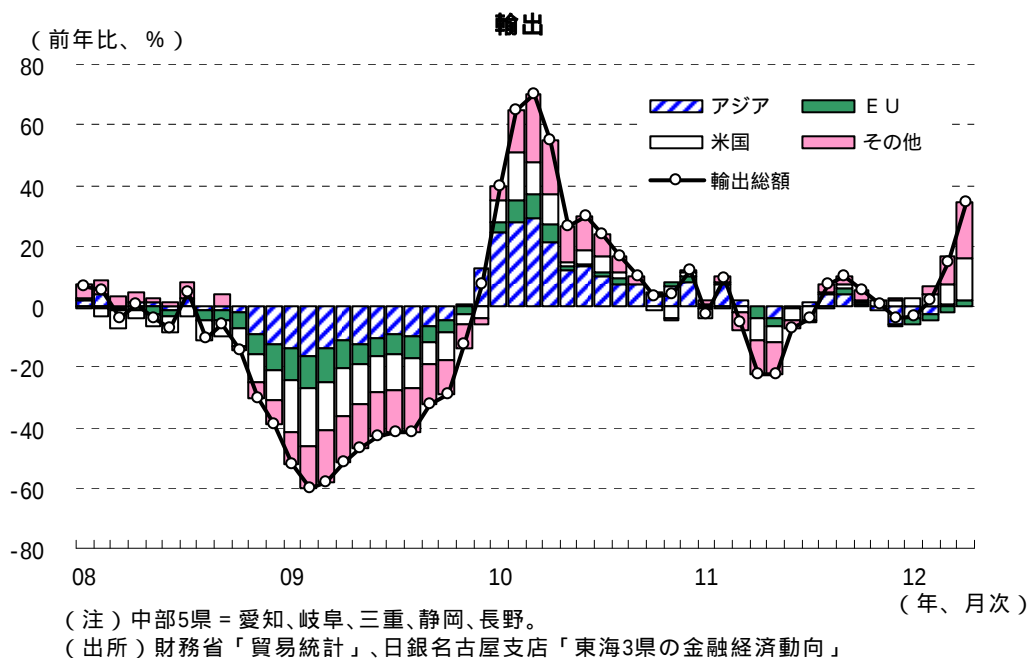
8. 公共投資 ~ 下げ止まりつつある

○5月の東海3県の公共工事請負額は、前年比+42.7%の552億円と増加に転じた。全国的に本格化してくる復興関連需要の東海への波及はほとんど期待できないが、東海3県でも災害復旧および防災対策工事の発注などにより横ばい圏での推移が見込まれる。

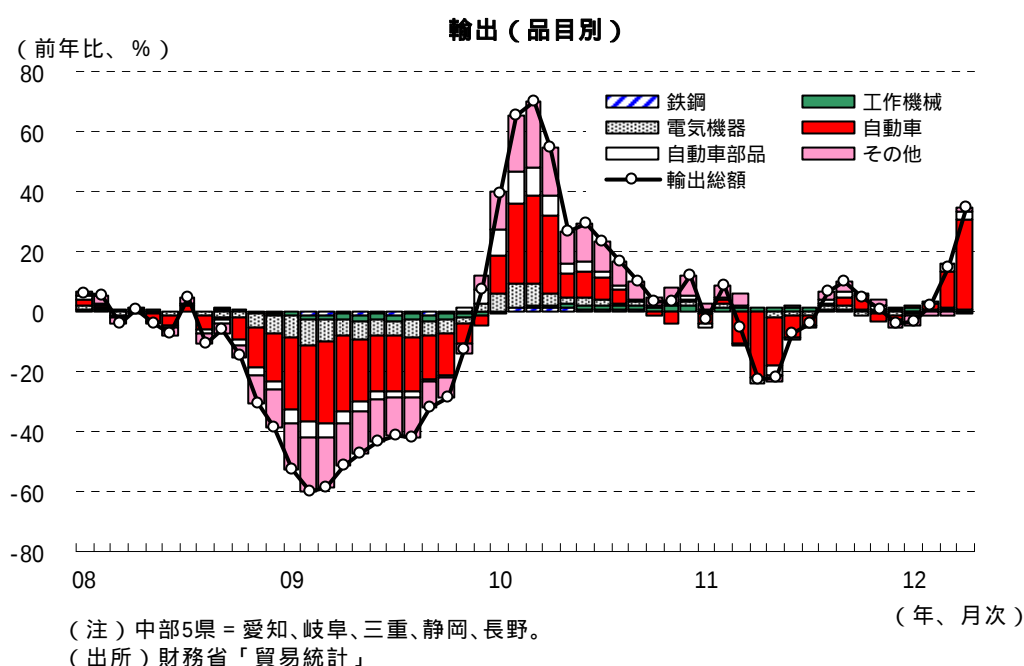


9. 輸出入 ～輸出、輸入とも増加

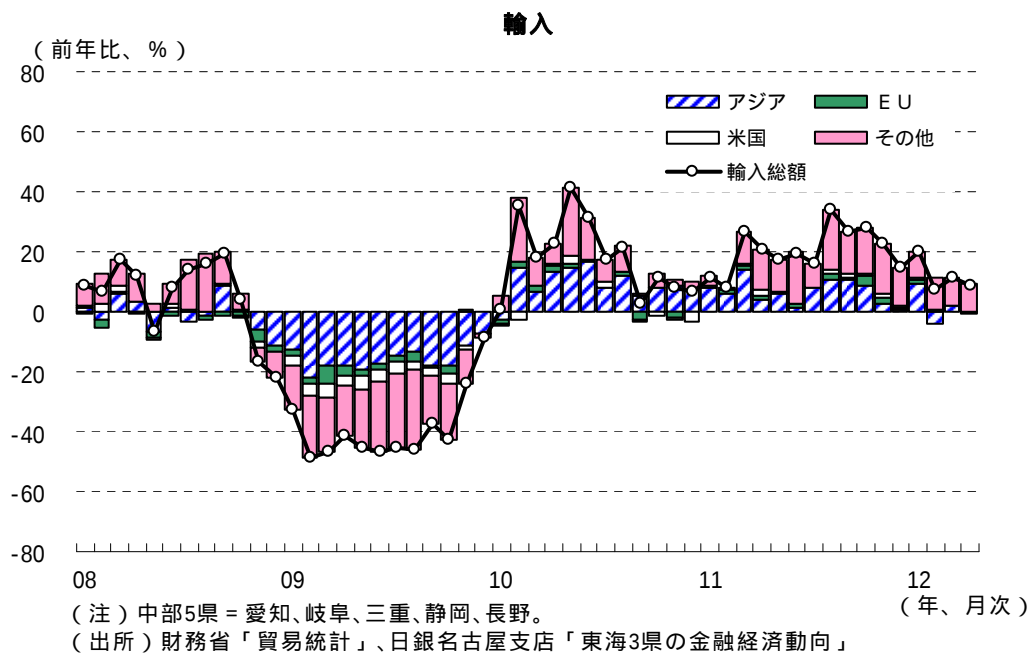
○4月の名古屋税関管内の輸出額は前年比+34.4%と3ヶ月連続で増加し、特に自動車为好調な米国向けが同4.3倍となった。地域別の寄与度をみると、中国などアジア向けが-0.1%ポイントと減少したが、米国向けは+14.0%ポイントと大きく寄与した。EU向けは+2.2%ポイントと5ヶ月ぶりのプラスとなった。今後も米国向けを中心に緩やかな伸びが見込まれる。



○品目別にみると、自動車(+30.6%ポイント)や自動車部品(+2.7%ポイント)、工作機械(+0.4%ポイント)などがプラス寄与となっているが、特に自動車の寄与度が大部分を占めている。

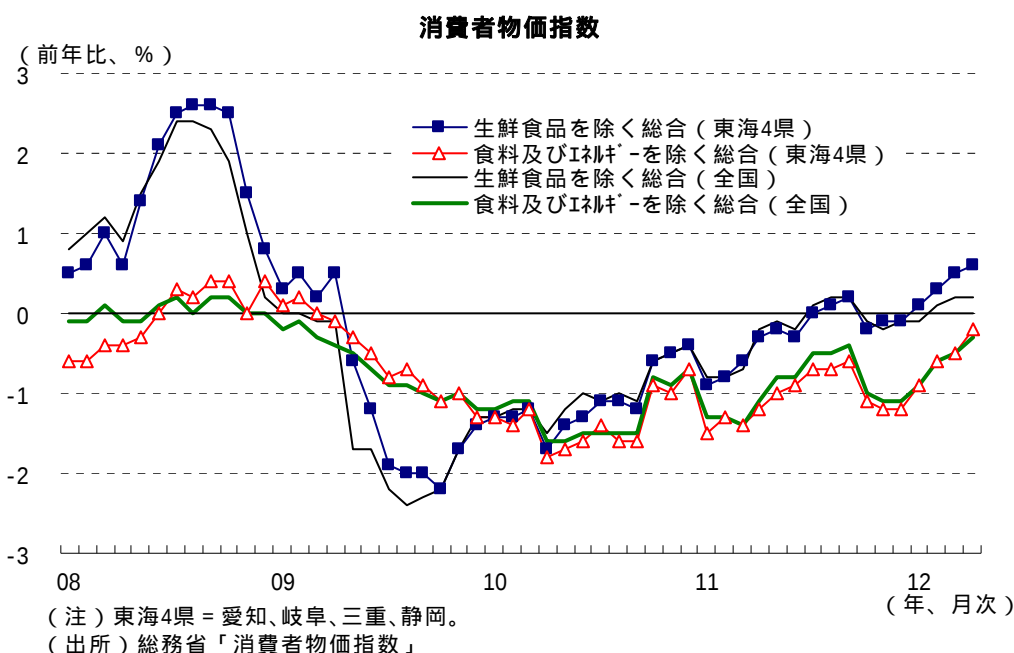


○4月の名古屋税関管内の輸入は前年比+8.9%と28ヶ月連続で増加した。地域別にみると、中東など、その他地域からの原油やLNGガスの寄与が大きくなっている。今後も火力発電の増強にともない、LNGガスなどの鉱物性燃料の需要が見込まれることから輸入は安定的に推移するとみられる。



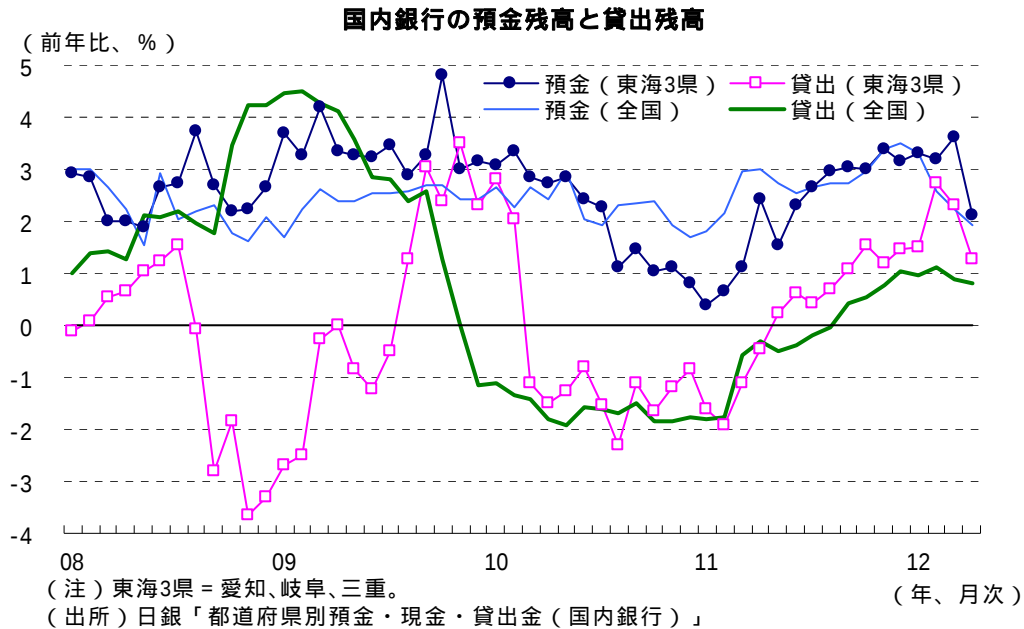
10. 物価 ~ 消費者物価は緩やかに上昇

○4月の東海4県の消費者物価指数は、生鮮食品を除く総合で前年比+0.6%と4ヶ月連続で上昇した。一方、食料・エネルギーを除く総合では-0.2%と下落が続いているものの、下落幅は縮小している。家計の所得環境の持ち直しは緩やかであり、依然として物価の上昇圧力は弱い。今後の消費者物価の上昇率も小幅なものにとどまると見込まれる。



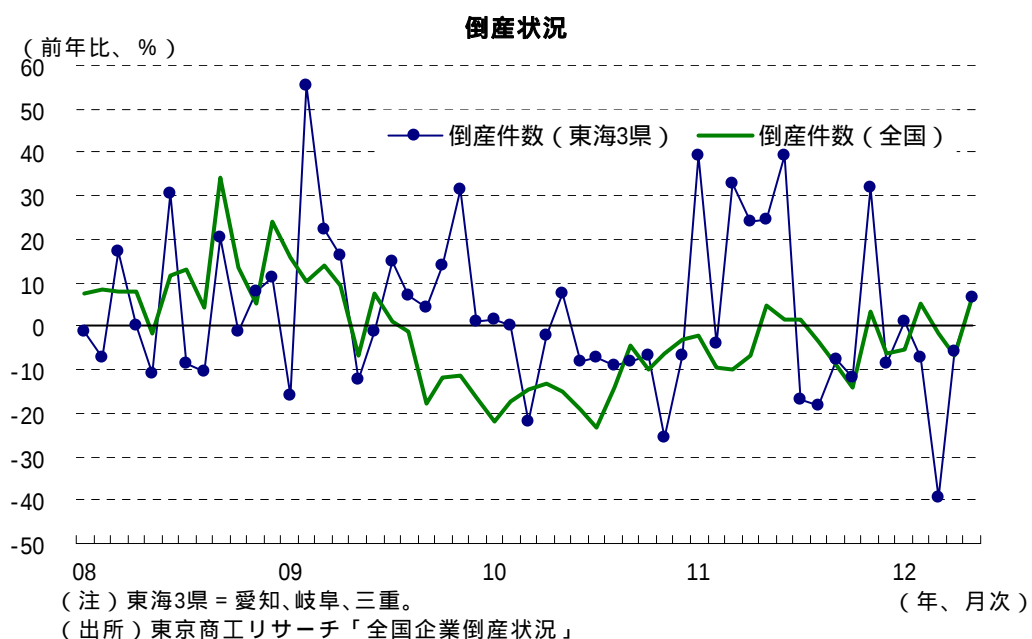
11. 金融 ～預金、貸出ともに増加

○4月の東海3県の預金残高（国内銀行ベース）は前年比+2.1%の46.0兆円となった。一方、貸出残高（国内銀行ベース）は同+1.3%の22.9兆円と12ヶ月連続で増加した。住宅ローンは伸び悩んでおり、自動車の増産に伴う手元資金の需要も一段落したとみられ、東海3県の貸出の伸びは+1.3%と前月の+2.3%から1.0%ポイント低下した。



12. 倒産 ～倒産件数は増加、負債総額は減少

○5月の東海3県の倒産件数は、前年比+6.6%の113件となった。負債総額は148億円で同-41.1%と2ヶ月ぶりに減少した。引き続き中小・零細企業の小口倒産が目立っている。



【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】

		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後			3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	全国	↗		↗	輸出	全国	→		→
	東海	↗		→		東海	↗		↗
	関西	→		→		関西	↘		→
個人消費	全国	↗		↗	輸入	全国	→		↗
	東海	↗		→		東海	↗		→
	関西	↗		↗		関西	→		→
住宅投資	全国	→		↗	生産	全国	↗		→
	東海	→		→		東海	↗		→
	関西	↗		→		関西	→		→
設備投資	全国	↗		↗	雇用	全国	→		→
	東海	→		→		東海	↗		→
	関西	↘		→		関西	→		→
公共投資	全国	↗		↗	賃金	全国	↗		→
	東海	→		→		東海	→		→
	関西	→		→		関西	→		→



：晴れ



：薄日



：曇り



：小雨



：雨

- (注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。
 2. シャドー部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。
 3. 全国は6月4日時点の予報。

【各項目のヘッドライン】

項目		5月のコメント	6月のコメント
1. 景気全般	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	関西	横ばいで推移している	横ばいで推移している
2. 生産	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	持ち直している	持ち直している
	関西	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移
3. 雇用	全国	厳しい中で一進一退	厳しい中で一進一退
	東海	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	関西	厳しい中で一進一退	厳しい中で一進一退
4. 賃金	全国	下げ止まりの動き	緩やかに持ち直している
	東海	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移
	関西	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移
5. 個人消費	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
6. 住宅投資	全国	緩やかな持ち直し基調にある	緩やかな持ち直し基調にある
	東海	下げ止まりつつある	下げ止まりつつある
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
7. 設備投資	全国	持ち直している	持ち直している
	東海	底堅く推移している	底堅く推移している
	関西	弱含んでいる	弱含んでいる
8. 公共投資	全国	増加している	増加している
	東海	減少傾向にある	下げ止まりつつある
	関西	下げ止まりつつある	下げ止まっている
9. 輸出入	全国	輸出、輸入とも横ばい	輸出、輸入とも横ばい
	東海	輸出、輸入とも増加	輸出、輸入とも増加
	関西	輸出、輸入とも横ばい	輸出は弱い動き、輸入は横ばい
10. 物価	全国	国内企業物価は緩やかに上昇、消費者物価は横ばい	国内企業物価、消費者物価ともに横ばい
	東海	消費者物価は緩やかに上昇	消費者物価は緩やかに上昇
	関西	消費者物価は横ばい	消費者物価は横ばい
11. 金融	全国	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加
	東海	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
	関西	預金は増加、貸出は減少	預金は増加、貸出は減少
12. 倒産	東海	倒産件数は減少、負債総額は増加	倒産件数は増加、負債総額は減少
	関西	倒産件数、負債総額ともに減少	倒産件数、負債総額ともに増加

（注）シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目

「グラフで見る東海経済」の見方

【今月の景気判断】

○レポート発表時における景気判断。**【今月の景気予報】**における各項目の現況をもとに総合的に判断。

【今月の景気予報】

○3ヶ月前～・・・3ヶ月前～現況の「方向感」を、①改善、②横ばい、③悪化の3段階に分類。

○現況・・・各項目の現在の「水準」を①晴れ、②薄日、③曇り、④小雨、⑤雨の5段階に分類。

○～3ヶ月後・・・現況～3ヶ月後の「方向感」を、①改善、②横ばい、③悪化の3段階に分類。

（注）

現況をあらわす天気マークはあくまで「水準」を判断したもので、3ヶ月前～の矢印が①改善、③悪化の場合でも、必ずしも天気マークが変更されるわけではない。

【当面の注目材料】

○各項目の現況、見通しをふまえて、今後景気を判断する上で注目すべきポイント。

【各項目のヘッドライン】

○全12項目について、毎月簡単なヘッドラインを記載、当月と前月のものを対比して示している。

○右端は各項目のグラフが掲載されているページ数。

【前月からの変更点】

○景気予報において判断の変更があった場合に変更理由を記載。

【主要経済指標の推移】

○当レポートで用いられている経済指標の半年間の動きを掲載。

【各項目】

○発表されている経済指標を元に現況の判断、今後の見通しをグラフを用いて解説。

【全国及び関西地区との比較】

○【今月の景気予報】と【各項目のヘッドライン】について、全国（グラフで見る景気予報）と関西地区（グラフで見る関西経済）の判断と、一覧表で比較。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡下さい。